

## 令和4年度三田市高校生議会 質問書

【質問者】14番 三田祥雲館高校 2年 中森 加奈 (なかもり かな)

【担当課】地域共創部 産業戦略室 農業創造課

【答弁予定者】地域共創部長

【質問事項】三田市の農業や特産物の認知度を上げる方法について

【質問内容】

14番 高校生議員の三田祥雲館高校2年中森 加奈です。私からは、三田市の農業や特産物の認知度を上げる方法についてお伺いします。

わたしは学校の授業で三田市の農業を盛り上げるためにインスタグラムで魅力を伝える活動をしています。わたしは三田市の特産物の美味しさや魅力を多くの人に知ってもらいたいと思っています。

その活動の事前調査として、2022年7月に約200人の三田祥雲館高校生を対象に11種目の食べ物について「それらが三田市の特産品だということを知っているか」というアンケートを取りました。その結果、いくつかの種目は全体の10パーセント以下の人にしか知られていないことがわかりました。具体的には、三田牛・母子茶は認知度も高いのですが、それ以外は全体的に低く、さんだくり南瓜、ハウストマト、さんだピーマンの3つが特に認知度が低いという結果を得ました。自由記述の回答では、三田市民の生徒でも「給食以外で食べることは少ない」という声が多くありました。

「第5次三田市農業基本計画」では、三田市は既に認知度の高い三田米や三田牛のPRに取り組んでおられますが、さんだくり南瓜、トマト、ピーマンを含めた他の特産物についてどのように認知度を高め、消費を拡大するような取り組みをおこなっているのでしょうか。

また、現在の農業は高齢化・後継者不足という問題を抱えています。農業従事者の数の増加につなげるためにも、三田市の未来をつくっていく若者世代を対象とした地域特産品のPR活動は必要だと思います。その点についても三田市の計画や現在の取り組みをお聞きしたいです。

以上のことにつきまして、市のお考えをお聞かせください。

---

## 【答 弁 内 容】

議員ご質問の「三田市の農業や特産物の認知度を上げる方法」についてお答えいたします。

まずは、インスタグラムを使って三田の農業を盛り上げる活動をしていただいておりますことに、お礼を申し上げます。

ご質問の「三田米や三田牛以外の特産物の認知度向上や消費拡大の取り組み」についてですが、三田産農畜産物といえば、三田牛や三田米、母子茶などが有名であります。黒大豆枝豆や山の芋、三田ピーマン、きゅうり、くり南瓜、トマト、いちごなど、様々な野菜が生産され、市内の直売所や量販店のほか、神戸や阪神地域を中心に出荷されており、消費者の食卓に届けられております。

三田産の野菜は、消費地のすぐ近くで生産され、鮮度が高くて美味しいことが大きな魅力であり、消費者にも好評を得ています。

こうした「鮮度」「美味しさ」「安全・安心」といった三田産野菜の魅力を様々な機会を通じてPRすることで、三田産のファンを増やし、消費拡大につなげているところです。

昨年11月には、「さんだ農業まつり」をコロナ禍の中ではありましたが、3年ぶりに大規模に開催し、約1万人の来場者に三田産の食材を使った食べ物を味わっていただいたほか、市内の生産者が育てた野菜等を対面で販売させていただきました。また、今年1月15日のいちごの日に合わせて「いちごマルシェ」を開催し、三田いちごの美味しさを多くの消費者へPRを実施してきました。

また、2025年に開催される大阪・関西万博を、国内外からの来場者に対する認知度を高めるチャンスと捉え、万博会場内の飲食施設への三田産食材の提供など、今後、事業者と連携しながら進めていければと考えております。

次に「農業者を増やすための若者世代を対象とした三田産農畜産物の魅力発信」についてですが、議員ご指摘のとおり、農業従事者が減っているという課題があり、その背景の一つには、若者が農業に興味・関心を持っていないことがあると考えております。

そのため、第5次三田市農業基本計画では「産官学連携の推進」を重点施策に掲げ、現在も市内の大学や高校と連携し、10代から20代の方に向けた三田

産食材の魅力発信とともに、農業に興味を持ち、触れてみる機会づくりを進めております。

一例として、湊川短期大学の学生のアイデアを活かしてヤマフクモチの美味しい食べ方を提案するレシピ集などを作成し、直売所での販売促進に活用することや、関西学院大学や市内の高校などでの特別授業を通して、三田市の農業を知っていただく取り組みも進めております。

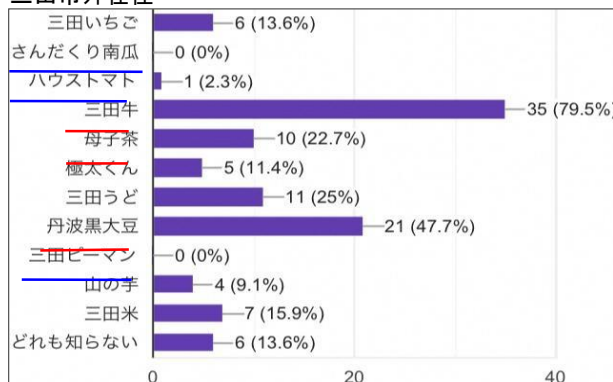
これらの取り組みを通じ、若い世代の三田産農産物のファンを増やすとともに、農業を始めようとする若者の掘り起こしにつなげてまいりたいと考えております。

あわせて、中森議員のように、本市の農業に興味を持ち、農業に関わりたいと考える高校生が増えることが、本市の農業を盛り上げていくことにつながることから、引き続き、インスタグラムでの魅力発信など、三田の農業発展のためにご協力をお願いします。

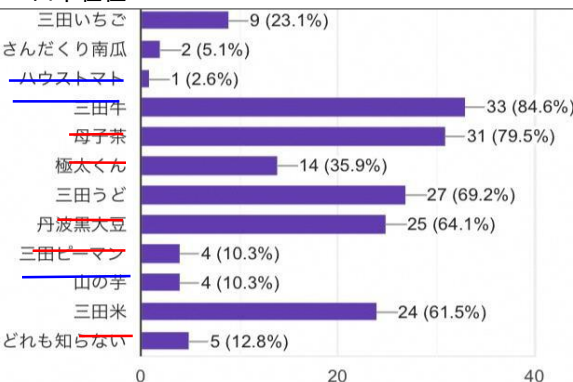
## 三田祥雲館高校20回生対象 三田市の特産物の認知度調査

- ・ 三田牛、母子茶、三田うどん、三田米、丹波黒大豆大豆【多】
- ・ ハウストマト、さんだくり南瓜、ピーマン【少】

三田市外在住



三田市在住



### 1 三田産農産物の生産振興

#### (1) 三田産黒大豆枝豆の生産振興

水稻に代わる転換作物として、黒大豆枝豆の作付面積の拡大を推進し、黒大豆枝豆を新たな三田産ブランドとして確立を図ります。

#### (2) 収益性の高い作物の栽培促進

施設園芸作物<sup>\*</sup>を中心とした収益性の高い作物の栽培を促進し、農業の収益性向上を図ります。

#### (3) 農業振興に関する包括連携協定<sup>\*</sup>の締結

民間企業などとの農業振興に関する包括連携協定の締結を契機として、担い手の育成や栽培技術向上の支援、雇用拡大など、地域農業の課題解決を図ります。

### 2 三田産ブランドの魅力発信と販路開拓

#### (1) 大阪・関西万博を契機としたPR強化

令和7年(2025年)の大阪・関西万博の開催にあわせて、三田産農産物(三田米、三田牛、母子茶、いちごなど)の魅力向上などを目的としたPR活動を実施します。